

---

# Pa ~ パスカル ~

紅い羽

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Paｓパスカル

### 【Nコード】

N6068D

### 【作者名】

紅い羽

### 【あらすじ】

朝。起きたら・・・???妙な事になっていた。

## 第一話・パスカル（前書き）

この小説は、ある人物が作ったものです。

## 第一話・パスカル

朝。

妙な感じを覚え起きてみると、とても高級なベッドに寝ていた。  
回りの感じももちろん違う。

驚く間もなく、変な奴がやって来た。

「レオ、オボツチャマ」

「あの…僕の名前マークなんすけど」

「ここは空想上の空間パースです。この空間ではあなたの名前はレオなのです。」

あなたはここにずっと居ても問題はありません。ヨ」

「居たくねーし」

「では、飽きたらお帰り下さい」

「あなた人間の世界がイヤになったんでしょ？」

俺は、昨日・・・

「こんな世界居たくない」

・・・って言ったのだった。

と思い出したが、信じたくない自分がいた。  
夢…夢…夢…と想いながらそんなパースに居たくなった。

「私の名前はフランキー・ビーズと言います。ヨロシク。後、510万人が暮らしています。」

この施設の名はギミックです。私の仕事は3班であなた様のお世話です」

僕は廊下に出て、隣の部屋に侵入した。

そこには二人の白人が居た。

驚いた顔をしたが。にこつと笑い。

「あぁっ新入りね。さっきビーズさんから聞いたぜ。ヨロしく。俺リック・スミスで

こっちが…キャプテン。出てこいよ」

パンパン。

「イ、イタイよリック君」

どっちが先輩なのか分かんないな。  
と想いつつ自分の部屋に戻った。

そこにリックとキャプテンが入って来た。

「めっちゃ広いじゃん。あっそーだ、今日、おまいの祝賀会やるんだ。絶対コイよ！

510万人くんだゾー。」

僕は、祝賀会に行く事にした。  
行った時驚く事だらけだったが、一番驚いたのが、何より510万人と言う人数だった。

そこではいろいろな人達との出会いがあった。

1班の人、3班の人、9班の人とも知り合いになった。

そこでは、10班の人全員と会った。

まず、クロック・ビーズ彼は、執事の息子だった。

そして クリス、彼はとてもクールだったが、好感が持てた。

そして、シューはサッカーが得意だと言っていた。

僕も小さい頃よくやった。

そして二時間ぐらい騒いで帰って来た。

## 第二話・夜（前書き）

元ネタ書いてる方へ

すみません、文字数が足りなかったんでいろいろと付け足してしまいました。

## 第二話・夜

「うーん・・・」

なんかぐっすり眠れない夜。

うなっているとき、ビーズが声をかけてくれた。

「眠れないのでしょうか。仕方ない事です。散歩でも行つて来てはどうでしょう？」

「すまない、行つて来るよ。サンキューな」

ゆっくり体を起こして部屋の外に出た。

みんな寝ていると思っていたが、意外にみんな起きていた。  
1班の人達や2班の人達が僕の前を通る時に見せる、  
新入りだなと呆れる顔が凄く分かりやすかった。

途中でリックを見つけた。

「リック・・・」

「よお、新入り！！ええーつと・・・」

「レオ」

「そーそー、レオだったな。すっかり忘れてた」



「・・・」

話題が無くなってしまったのでパースやギミックについて話をすることにした。

「パースについてどう思ってるの？」

「お、俺は、何も考えてないよ、分かんないからね」

「そうなん。ギミックに居て一番大変な事って何？」

「仕事かな？」

「へっえ、何、仕事あんだー？」

「知られてないんだー、可哀想に、ビーズの奴。10班の担当で新薬開発をやってたんだ。明日

おまいも来る事になんだろうな」

「新薬開発・・・」

「レオ、俺眠たくなってきた。んじゃ、また明日なー」

「ああ。また明日」

俺は少し軽い感じの足取りで自分の部屋に戻った。

ベッドの中に潜り込むと、さっきのリックとの会話がよみがえってきた。

俺がここに来て2日間たった。

2日がたったが、ここがどこだかよく分かっていない。

そこで自分で仮説を作ってみた。

『このギミックもパースも夢そのものではないか』と考えた。

何となくすっきりした気がした。

ビーズがかけてくれた何気ない一言によって気分が晴れたというか・  
・

話を聞いてくれたリックにうち解けて安心したというか・・

とりあえず、今晚はぐっすりと眠る事が出来た。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6068d/>

---

Pa～パスカル～

2010年10月25日01時39分発行